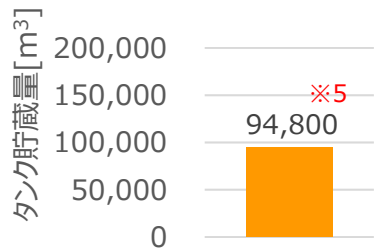
ALPS処理水等の告示濃度比(推定値)毎の貯蔵量（2024年9月末時点）

TEPCO

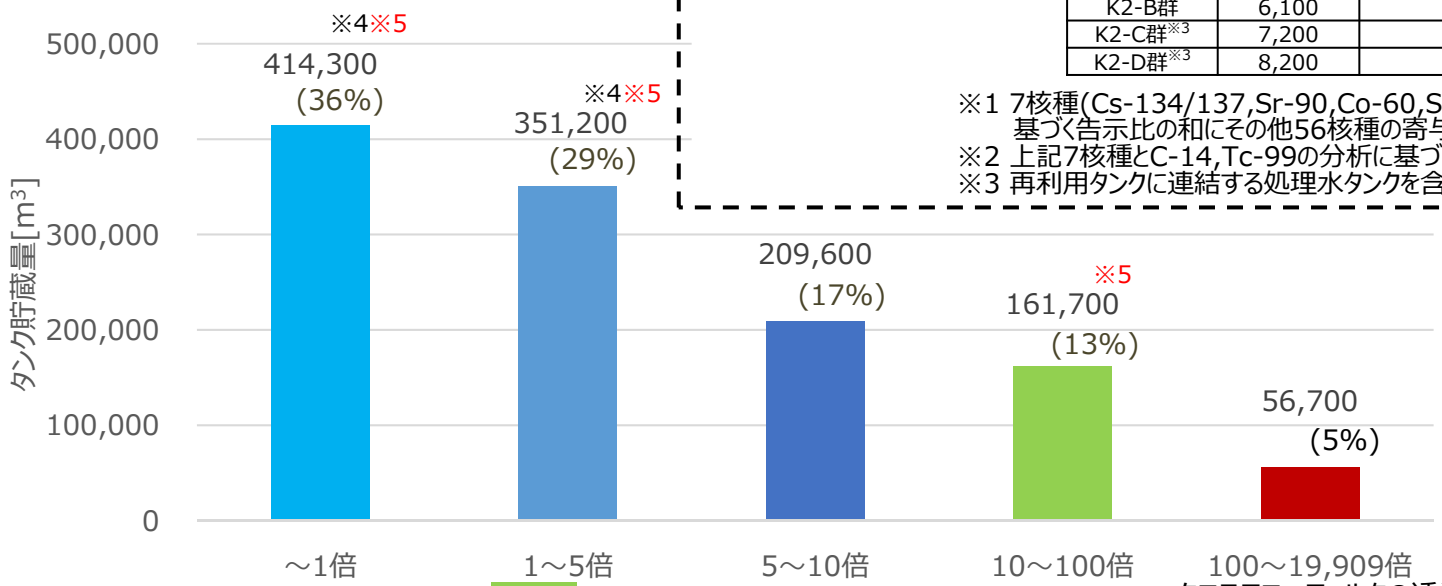
再利用タンク



再利用タンクの処理途上水の告示濃度比総和

	貯留量 m³	告示濃度比総和		
		タンク貯留前※1	タンク貯留後※2	
			最前段	最後段
G3-E群	8,100	0.61	0.50	1.84
G3-F群	8,100	0.48	0.39	1.16
G3-H群	6,400	0.46	8.88	113.18
G3-G群	15,100	0.45	0.23	2.66
H8-A群	2,100	1.79	34.40	23.62
H8-B群	9,600	1.79	39.23	136.08
J1-B群	8,400	10.11	464.51	221.78
K1-CD群	8,300	0.44	0.06	0.18
K2-A群	7,200	0.45	0.06	1.38
K2-B群	6,100	0.46	1.08	2.33
K2-C群※3	7,200	0.44	0.05	17.42
K2-D群※3	8,200	0.45	0.10	17.86

※1 7核種(Cs-134/137,Sr-90,Co-60,Sb-125,Ru-106, I-129)の分析に基づく告示比の和にその他56核種の寄与【0.41】を加えた値
※2 上記7核種とC-14,Tc-99の分析に基づく告示の和
※3 再利用タンクに連結する処理水タンクを含む



＊各貯蔵量の全体に占める割合は，端数処理を行っており，合計が100%とならない場合がある。

設備運用開始初期の処理水等

クロスフローフィルタの透過水※6，放射能濃度の高いSr処理水の残水にALPS処理水等が混合された水

※4 放射能濃度の実測完了後，追加で受入れた（2018年10月～）ALPS処理水等を含む。なお，受入れ量は少ないため当該タンク群における62核種の告示比総和(推定)は実測結果からの算出した値と同じとしている。

※5 ALPS処理水放出のため，～1倍：17,300m³減少。淡水生成のため，1～5倍：2,200m³減少。
ALPS処理水受入のため，10～100倍：2,500m³増加，再利用：6,700m³増加。

※6 2013年度に発生した既設ALPSのクロスフローフィルタの不具合により炭酸塩沈殿処理のスラリーが設備出口に透過した事象。

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.　無断複製・転載禁止　東京電力ホールディングス株式会社